

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y202
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キャリアディベロップメントニ キャリアディベロップメントII		講義	演習	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	30	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	社会生活や、実習を行う上での基本的なコミュニケーションスキルと対応・考え方を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	自ら考え、行動した先に何が起こるか予測できるようになる。				
学びに向かう力	積極的な参加、柔軟な思考、協力と強調、やオープンマインド、クリティカルシンキングなどの姿勢で向かう。				
授業の概要					
コミュニケーションの3つの基本的な考え方とスキルを訓練し、保育現場や実習先で実践することができるようになってほしい。 コミュニケーションスキルの自己の強みと弱みを知る。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
独自教材プリント配布					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. オリエンテーション			2		
2. コミュニケーションの基本			2		
3. 心理的環境の管理			2		
4. 保育者とこども			4		
5. 保育者と保護者			4		
6. 保育者と同僚			4		
7. 社会人基礎力とは			4		
8. 保育者に求められているもの			4		
9. 実習生に求められているもの			4		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y205
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シユウカツゼミニ ----- 就活ゼミⅡ		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	15	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能		就職活動をスムーズに行うための基礎知識を身につける。			
思考力・判断力・表現力		自発的に情報収集や施設見学を行い、他者に頼らずに成長する姿勢を持つ。			
学びに向かう力		保育系の就職活動について活動時期や方法を学び、計画的に活動できるようにする。			
授業の概要					
自己表現をすることと、希望の会社・団体について学ぶことをバランスよく行う。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> ・授業態度等による日常評価により決定する。 ・授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
授業内で提示					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 働くということ・社会人としての自覚		2			
2. 自己分析・自分の魅力探し		2			
3. 就職活動の流れ		2			
4. 業界研究・施設研究とは		2			
5. 就職活動における情報収集		2			
6. 求人票の見方		2			
7. 職業研究		3			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y309
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コミュニケーションカツドウニ コミュニケーション活動II		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	学校行事また、学生同士のコミュニケーションを深める行事の運営を経験する。				
思考力・判断力・表現力	異なる価値観や意見を持つ人に対しても柔軟に対応する力を学ぶ。				
学びに向かう力	新しい場面や関係性を通じて、自らのコミュニケーション能力を高める。				
授業の概要					
縦割り活動やクラス内でのコミュニケーションを深め、協調性や企画力を高める。 また、保育研修に参加し、保育知識を高める。					
成績評価基準					
出欠席と日常評価で評価する。					日常評価 100%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1.	オリエンテーション		2		
2.	縦割り交流		8		
3.	実習報告会		8		
4.	防災訓練		2		
5.	保育研修		20		
6.	縦割り交流		8		
7.	グループワーク		4		
8.	まとめ		8		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y211
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ビジネスマナーⅡ		講義・実技	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	根上 裕恵 (ネガミ ヒロエ)
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	「ビジネスマナー」は社会人にとって他者とのコミュニケーションを円滑にし、より自分らしくに貢献するために必要な知識を修得。ビジネスマナーの意味を理解し、マニュアルとしてではなく相手へのきもち・思い遣りを自然に体現できる人材を育成する。				
思考力・判断力・表現力	基本的ビジネスマナーの意味を理解し、マニュアルとしてではなく保育者ならではの相手への表現力 思い遣りを自然に体現する力を育てる。				
学びに向かう力	積極的に話し合う・意見交換をする・実践する姿勢				
授業の概要					
1年時に学んだことを基に2年時ではより具体的に「信頼される保育者」を目指し、様々なビジネスシーンで立ち居振る舞いやその行動の意味を学ぶ。 ロールプレイングやグループワーク・ワークシェア・ディスカッションを取り入れながら学習を進め、身につく授業を目指す。					
成績評価基準					
期末試験の得点に重きを置きながらも、課題の評価点 授業への取り組みと学習意欲、出席率等 総合評価したうえで決定する。				筆記試験	50%
				課題	20%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
ビジネスマナー 有限会社グロー(1年時使用テキスト継続) 演習課題 講師準備物					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. ガイダンス 接遇の心得	2	7. メール文章			2
2. 応対の手順	2	8. 冠婚葬祭			4
3. 席次2	2	9. 先輩・上司への接し方			2
4. 名刺交換	2	10. 保護者と良い関係性を築く			4
5. 訪問	4	11. 保育者に必要な「状況把握力」			4
6. ビジネス文章	2				
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y212
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ペンシュウジ ペン習字		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	真寄 綾乃
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	実際の教育現場で発揮できる書写力を身につける。				
思考力・判断力・表現力	字からも人物像が見えてくるため丁寧に書こうとする力や保育現場の様々な素材に記名する力を養う				
学びに向かう力	保育という職業に字の綺麗さを求めないのではなく、社会人としてあるべき姿として字の丁寧さを必要と認識し、学ぶ意欲をもつ				
授業の概要					
美しく読みやすい文字を書くことは、仕事や実生活の場面で有用である。正しく読みやすい文字が書ける技術を習得し、保育教諭として正しい文字が書けるように学習する。					
成績評価基準					
TPOに合わせて文字を書くポイントを習得したか。幼児教育の場で必要なひらがなを習得したか。 授業態度、提出物、試験結果を総合的に評価した上で決定する。				筆記試験	40%
				課題	30%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
授業内で指定					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 丁寧な字の基本理解・ペンの持ち方・姿勢・楷書の基本点画・氏名書き		1	10. 宅配便伝票の書き方		1
2. 漢字・基礎・部分の練習		1	11. 履歴書の書き方		2
3. アルファベット、数字の書き方		1	12. メモの取り方 付箋でよく使う言葉		1
4. 実習日誌の書き方		1	13. 連絡帳の書き方		2
5. お礼状の書き方		1			
6. のし袋の書き方		1			
7. 掲示物の書き方・作品作り		1			
8. 素材への記名		1			
9. 暑中見舞い、年賀状の書き方		1			
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y217
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ビジネスソフト二		演習	対面	こども保育科	
ビジネスソフトII					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	1	石上 美季子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	ビジネスソフトの有効な活用について学習する				
思考力・判断力・表現力	文書作成等について学び、パソコンスキルを身につける。				
学びに向かう力	保育業界へ就職後も文書作成や情報のデータ化などの業務に活かせるようにする。				
授業の概要					
Word・Excel・PowerPointの有効な活用方法を身に付け、保育の現場で活用することができるように学習する。					
成績評価基準					
日々の授業態度と授業ごとの課題により評価する。				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
30時間でマスター WORD&EXCEL 2021					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1.	PowerPointの基礎	6			
2.	PowerPointの活用	4			
3.	実習報告作成	4			
4.	Excelの基礎	6			
5.	Excelの活用	6			
6.	まとめ	4			
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y223
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コドモカテイフクシ 子ども家庭福祉		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	工藤 豪
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	子ども家庭福祉の理念・視点・方法と制度・取組について理解する。 少子化の推移・背景および要因と対策の関係性について理解する。				
思考力・判断力・表現力	歴史的な経緯や現状の課題と法制度の関係性を意識する力を身につける。 社会現象や諸問題の背景にある文化や慣習を認識する力を身につける。				
学びに向かう力	自分から積極的な姿勢で資料解釈作業に取り組むことができる。 グループメンバーと協働して問題の考察に取り組むことができる。				
授業の概要					
少子化の進行や地域社会の稀薄化に象徴されるように、わが国の子どもをめぐる環境は急速に変容しているが、その中で、子どもの健やかな育ちをどのように支援していくべきなのであろうか。本授業では、子ども家庭福祉の理念と対象、児童福祉に関する制度の展開、少子化に関する特徴と課題、保育・子育て支援サービスや子どもをめぐる社会環境などについて理解を深めていく。					
成績評価基準					
試験 (試験)、作業プリントやリアクションペーパーの内容等 (課題)、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など (学習意欲)、以上から総合的に評価する。なお、すべての授業に出席すること (欠席した場合には教員から指示された課題を提出すること等) が必要となる。				筆記試験	50%
				課題	25%
				日常評価	25%
使用テキスト・教材					
『新・子ども家庭福祉[第2版]』(2024、浦田雅夫編著、教育情報出版) 教員により Teams に配信される講義資料					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション・子ども家庭福祉の理念	2	8. 少子化 (1) -出生数・合計特殊出生率の推移とその背景-	2		
2. 「児童福祉」から「子ども家庭福祉」への変化・転換	2	9. 少子化 (2) -少子化の要因-	2		
3. 親権と子ども	2	10. 少子化 (3) -少子化と子育て支援施策-	2		
4. キーワードからみる子ども観 (1) -捨て子・堕胎・跡取り-	2	11. 児童虐待に関する実態の特徴	2		
5. キーワードからみる子ども観 (2) -愛着理論と3歳児神話-	2	12. 児童虐待に関する制度的対応	2		
6. 児童福祉の展開 (1) -戦前-	2	13. 保育所・幼稚園・認定こども園の概要と特徴	2		
7. 児童福祉の展開 (2) -戦後-	2	14. 放課後児童健全育成事業について	2		
		15. 母子保健に関する動向	2		
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y226
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクゲンリ ----- 保育原理		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育の歴史や現状をふまえ、保育の基本を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	子どもの発達や福祉に関する基本理念を理解し、保育の目的や価値を考える力。				
学びに向かう力	保育の基本的な理念や目的、子どもを取り巻く環境についての理解を深め、保育士としての役割や保育の在り方を探求する。				
授業の概要					
保育の基本となる諸法令や実際に保育の考え方などを学ぶ。また、保育の歴史を捉えたうえで、現在求められている子育て支援について理解を深め、保育者の役割を考えていく。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度、授業記録提出による日常評価により決定する。 短大レポート、科目終末試験の成績を総合して評価する。 				短大試験	30%
				レポート	30%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
「保育原理」近畿大学九州短期大学通信教育部 他授業内で提示					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 保育の方向性と保育実践の基礎となる 発達観		2	9. これからの保育		4
2. 保育に関する諸法令		2	10. まとめ		4
3. 保育指針・教育要領にみる保育原理		2			
4. 養護と教育の一体化について		2			
5. 保育実践の基本構造		2			
6. 多様な保育内容とその方法		2			
7. 子育て支援について		2			
8. 保育の歴史		8			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y229
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクノシンリガク 保育の心理学		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	鈴木 幸子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育実践に関わる発達理論等の心理学的知識を踏まえ、発達を捉える視点について理解する。				
思考力・判断力・表現力	こどもの年齢や個性に応じた心の発達を理解する力。				
学びに向かう力	こどもの発達に関わる心理学の基礎を習得し、養護及び教育の一体性や発達に即した援助の基本となるこどもへの理解を深める。				
授業の概要					
乳幼児期のこどもの学びの過程や特性について基礎的な知識を習得し、保育における人との相互的関わりや体験、環境の意義を理解する。					
成績評価基準					
授業時に提示する課題と授業態度による日常評価により成績評価する。				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
近畿大学短期大学部指定、その他授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 発達を捉える視点		2	9. 言語の発達		2
2. 子どもの発達を理解することの意義		2	10. 子どもの学びと保育		2
3. 子どもの発達と環境		2	11. 乳幼児期の学びに関わる理論		2
4. 発達理論と子どもの観・保育観		2	12. 乳幼児期の学びの過程と特性		2
5. 子どもの発達過程		2	13. 乳幼児期の学びを支える保育		2
6. 社会情動的発達		2	14. まとめ		4
7. 身体的機能と運動機能の発達		2			
8. 認知の発達		2			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y231
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コードモカテイシエンノシンリガク 子ども家庭支援の心理学		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	2	工藤 豪
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	子どもをめぐる環境や生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を理解する。子どもの発達段階に応じた心理的ニーズや支援における課題を理解する。				
思考力・判断力・表現力	さまざまな特性をもつ子どもの個性やニーズを考えることができる。どのような工夫や配慮が必要とされるのかを考えることができる。				
学びに向かう力	自分から積極的な姿勢で資料解釈作業に取り組むことができる。グループメンバーと協働して問題の考察に取り組むことができる。				
授業の概要					
子ども家庭局より示された四つの学習目標、「1. 子育て家庭をめぐる現代の社会的状況と課題について理解する」、「2. 家族・家庭の意義や機能を理解するとともに、親子関係や家族関係等について発達の観点から理解し、子どもとその家庭を包括的にとらえる視点を習得する」、「3. 生涯発達に関する心理学の基礎的な知識を習得し、初期経験の重要性、発達課題等について理解する」、「4. 子どもの精神保健とその課題について理解する」について学習する。					
成績評価基準					
試験(試験)、作業プリントやリアクションペーパーの内容等(課題)、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など(学習意欲)、以上から総合的に評価する。なお、すべての授業に出席すること(欠席した場合には教員から指示された課題を提出すること等)が必要となる。				筆記試験	50%
				課題	25%
				日常評価	25%
使用テキスト・教材					
大倉得史・新川泰弘編著、2020、『子ども家庭支援の心理学入門』ミネルヴァ書房。 教員により Teams に配信される講義資料					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション・子ども家庭支援の心理学における四つの課題	2	10. 子どもの発達と家庭(4) - 青年期 -	2		
2. 子どもと少子化(1) - 出生の推移 -	2	11. 子どもと家庭への支援(1) - 特別な配慮を必要とする子どもと家庭 -	2		
3. 子どもと少子化(2) - 女性のライフコースにおける実態と特徴 -	2	12. 子どもと家庭への支援(2) - 発達支援が必要な子どもと家庭 -	2		
4. 子どもと少子化(3) - 仕事と子育ての両立支援 -	2	13. 子どもと家庭への支援(3) - 生活環境・生育環境 -	2		
5. 子どもと家庭(1) - 意義と機能 -	2	14. 子どもと家庭への支援(4) - 心の健康問題 -	2		
6. 子どもと家庭(2) - 家族への理解 -	2	15. 子どもと家庭への支援(5) - 子どもをめぐる社会的状況と課題 -	2		
7. 子どもの発達と家庭(1) - 乳児期 -	2				
8. 子どもの発達と家庭(2) - 幼児期 -	2				
9. 子どもの発達と家庭(3) - 児童期 -	2				
その他	関連科目				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y232
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コドモカテイシエンロン 子ども家庭支援論		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	工藤 豪
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	現代の日本社会で家庭支援を行う意義やその背景について理解する。 家庭への個別的な支援における特徴や課題について理解する。				
思考力・判断力・表現力	歴史的な経緯や現状の課題と法制度の関係性を意識する力を身につける。 社会現象や諸問題の背景にある文化や慣習を認識する力を身につける。				
学びに向かう力	自分から積極的な姿勢で資料解釈作業に取り組むことができる。 グループメンバーと協働して問題の考察に取り組むことができる。				
授業の概要					
核家族化やきょうだい数の減少および地域社会の稀薄化などにより、わが国で伝統的に行われてきた家庭の機能・役割が縮小している中、保育者による家庭支援の意義・必要性が高まっている。そのような社会の変容を踏まえ、子どもと家庭における特徴や抱える課題を把握し、制度を活用しながら多様な家庭を支援していく方法について理解を深めていく。					
成績評価基準					
試験 (試験)、作業プリントやリアクションペーパーの内容等 (課題)、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など (学習意欲)、以上から総合的に評価する。なお、すべての授業に出席すること (欠席した場合には教員から指示された課題を提出すること等) が必要となる。				筆記試験	50%
				課題	25%
				日常評価	25%
使用テキスト・教材					
渡邊 暁ほか編著、2024、『実践で役立つ 子ども家庭支援論』ミネルヴァ書房 教員により Teams に配信される講義資料					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション・家庭支援を行う意義と求められる背景		2	9. 保育と家庭 (1) -法・制度-	2	
2. 日本の家族 (1) -家族と世帯-		2	10. 保育と家庭 (2) -サービス・専門機関-	2	
3. 日本の家族 (2) -時代的変容-		2	11. 家庭への支援 (1) -保育所等を利用する子どもの家庭への支援-	2	
4. 日本の家族 (3) -地域的多様性-		2	12. 家庭への支援 (2) -地域の子育て家庭への支援-	2	
5. 子どもと家庭 (1) -現代社会における家族の機能-		2	13. 家庭への支援 (3) -子どもを産み育てるライフコースとその障壁-	2	
6. 子どもと家庭 (2) -時代の推移にともなう子育て環境の変容-		2	14. 家庭への支援 (4) -支援の展開過程とジェノグラムの作成-	2	
7. 子どもと家庭 (3) -親になるプロセスとリプロダクティブヘルス/ライツ-		2	15. 家庭への支援 (5) -支援の展開過程におけるポイントと留意点-	2	
8. 子どもと家庭 (4) -乳幼児期の子どもと子育て		2			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y233
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヨウジヘノトクベツナシエン ----- 幼児への特別な支援		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	15	1	工藤 豪
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	各障がいの概要・特徴や保育における留意点について理解する。 貧困・外国籍・性的マイノリティの子どもに対する支援について理解する。				
思考力・判断力・表現力	さまざまな特性をもつ子どもの個性やニーズを考えることができる。 どのような工夫や配慮が必要とされるのかを考えることができる。				
学びに向かう力	自分から積極的な姿勢で資料解釈作業に取り組むことができる。 グループメンバーと協働して問題の考察に取り組むことができる。				
授業の概要					
視覚障がい、聴覚障がい、言語障がい、学習障がい、知的障がい、自閉症スペクトラム障がい、注意欠如・多動性障がいの定義・特徴を把握するとともに保育においてどのような工夫・対応・配慮が求められるのかについて学習する。さらに、貧困・外国籍・性的マイノリティの子どもが抱える課題に対してどのような支援が求められるのかを考える。					
成績評価基準					
確認作業（確認作業）、作業プリントやリアクションペーパーの内容等（課題）、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など（学習意欲）、以上から総合的に評価する。なお、すべての授業に出席すること（欠席した場合には教員から指示された課題を提出すること等）が必要となる。				確認作業	50%
				課題	25%
				日常評価	25%
使用テキスト・教材					
尾崎康子ほか編、2018、『よくわかる障害児保育 第2版』ミネルヴァ書房 教員により Teams に配信される講義資料					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 視覚障がい・聴覚障がいの特徴と保育における留意点	2	5. 自閉症スペクトラム障がいの特徴と保育における留意点	2		
2. 言語障がいの特徴と保育における留意点	2	6. 注意欠如・多動性障がいの特徴と保育における留意点	2		
3. 学習障がいの特徴と保育における留意点	2	7. 貧困・外国籍・性的マイノリティの児童の特徴と保育における留意点	2		
4. 知的障がいの特徴と保育における留意点	2	8. 総括と確認作業	2		
その他		関連科目			
		障害児保育S			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y238
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コドモノホケン 子どもの保健		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	2	望月 満美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	こどもの心身の自然で正常な発達の姿を理解し、それに基づいてこどもの心身の健全な育成の仕方を学習する。				
思考力・判断力・表現力	こどもの年齢や発達段階に応じた身体的な成長を理解する力。				
学びに向かう力	幼児期の健康や成長、病気の予防についての理解を深め、こどもの健やかな発育を支えるための知識と実践力を身につける。				
授業の概要					
運動機能や精神機能の発達、精神保健について学習する。これからかかわっていく子どもたちを実際にイメージしながら、グループで話し合ったりPCを使って調べたりしてより学習を深めていく。					
成績評価基準					
授業態度、出席状況、ノート作成状況、授業内の小テスト等を総合して評価する。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
よくわかる 子どもの保健 第3版 竹内義博・大矢紀昭編 (ミネルヴァ書房)					
授業内容・授業計画					
1. 生理機能の発達と保健 排泄、睡眠、感覚器官、免疫		時間数	4. 子どもの精神保健 精神保健とは		時間数
2. 運動機能の発達と保健 新生児、乳児、幼児、 学童期以降		2	子どもの心身の健康と心身症		1
3. 精神機能の発達と保健 言語、社会性、情緒の発達		4	生活習慣や行動上の問題		2
発達を評価する		2	発達障害		2
発達に影響する要因		6	慢性疾患		1
		1	育児環境		2
		1	母親のメンタルヘルス		1
			虐待とトラウマ		2
			地域精神保健活動		1
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y239
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コドモノシヨクトエイヨウイチ 子どもの食と栄養 I		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	15	1	吉川 直美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	小児の発育・発達特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食(保育所給食)、食教育の重要性を理解すること。				
思考力・判断力・表現力	食材の種類や栄養素の働きを理解し、バランスの取れた食事の大切さを知る。				
学びに向かう力	保育者として小児に適切な食事を提供することができるよう、各時期の栄養法を理解し、調理技能の修得を目指す。				
授業の概要					
子どもの食生活は、子どものみならず、家族や地域住民の健康や生活と密接な関係を持つ。理論を基にした食事展開、援助、食育の具体的な実践力を養うことを目指す。					
成績評価基準					
授業態度、出席状況、ノート作成状況、授業内の課題等を総合して評価する。				課題	70%
				日常評価	30%
使用テキスト・教材					
新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養 新版(北大路書房) 子どもの食と栄養 第3版 ~保育現場で活かせる食の基本(羊土社)					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1.	オリエンテーション		1		
2.	子どもの健康と食生活の意義		2		
3.	栄養に関する基本知識		2		
4.	乳児期の食生活		2		
5.	幼児期の発育・発達と食生活		2		
6.	生涯発達と食生活		2		
7.	食育の基本と内容		2		
8.	特別な配慮を要する子どもの食と栄養 アレルギー疾患をもつ子どもの食と栄養		2		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y241
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヨウジホイクイチ 幼児保育 I		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	30	2	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりの基本的な考え方について理解する。				
思考力・判断力・表現力	乳児の成長や発達を支えるために、愛情を持って寄り添い、柔軟に対応するために、観察力や対応力、保護者との信頼関係など、多くのスキルを身につけ、乳児の心身の発達を支援し、将来の自立に向けた大切な基盤を作る。				
学びに向かう力	養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。				
授業の概要					
乳児の発達と保育の基礎理解を目的とし、生活・遊び・健康支援の基本と乳児保育に必要な関わり方を学ぶ。					
成績評価基準					
・ 授業態度、授業記録提出による日常評価により決定する。				短大試験	30%
・ 短大レポート、科目終末試験実施科目である。				レポート	30%
※短大の成績は、科目終末試験の合格をもって単位習得とする。				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
近畿大学短期大学部指定、その他授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
		時間数		時間数	
1. 乳児保育の意義・目的、役割と機能	2	10. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育士等による援助やかかわり	2		
2. 乳児保育における養護及び教育	2	11. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた保育における配慮	2		
3. 子育て家庭に対する支援をめぐる社会的状況と課題	2	12. 乳児保育における計画・記録・評価とその意義	2		
4. 保育所における乳児保育	2	13. 職員間の連携・協働	2		
5. 保育所以外の児童福祉施設(乳児院等)における乳児保育	2	14. 保護者との連携・協働	2		
6. 家庭的保育等における乳児保育	2	15. 自治体や地域の関係機関等との連携・協働	2		
7. 3歳未満児とその家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	2				
8. 3歳未満児の生活・遊びと環境	2				
9. 3歳以上児の保育に移行する時期の保育	2				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y245
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウイクソウダン 教育相談		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	2	長谷川 智子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	子どもの世界や保育士の役割に対する理解を深めることを通して、子どもや家族への支援スキルの基本を学ぶことを目標とする。教育に関する保護者の諸相談について、深く理解すると同時に、対応のあり方を実践的に考える。				
思考力・判断力・表現力	なぜ保護者が悩んでいるのか、相手の立場になり考えられるようになる。さまざまなケースに対応するためのスキルを付ける。寄り添うことの大切さや温かさが伝わるような表現力を養う。				
学びに向かう力	相手を理解することの大切さや背景を知ろうとすることなど、保護者に寄り添うために必要なことを自ら学ぼうとする。				
授業の概要					
保教育相談の基礎理解を目的とし、乳幼児の発達課題や相談支援の基本原則を踏まえ、適切な援助の在り方を学ぶ。					
成績評価基準					
学習状況 (出席含む) 20%、レポート 30%、試験 50%				レポート	30%
				試験	50%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
短大テキスト					
授業内容・授業計画					
	時間数			時間数	
1. オリエンテーション 幼児理解の基礎	1	10.	幼児期における問題行動	1	
2. 幼児理解に関する心理学理論	1	11.	カウンセリングマインド	1	
3. 幼児理解に必要な教師の態度	1	12.	カウンセリングの技法	1	
4. 観察を中心とした幼児理解の方法論	1	13.	教育相談の実際	1	
5. 集団の中で育つ幼児の心	1	14.	様々な課題を抱える家族への	1	
6. 幼児期における諸問題の理解と心理的支援	1		支援		
7. 幼児期における保護沙耶の心理理解	1	15.	教育相談を進めるための組織	1	
8. 教育相談の必要性と教育相談における今日的課題	1		的な整備と多職種との連携		
9. 臨床心理学の基礎理論	1				
その他	関連科目				
※単元ごと演習課題を実施する。 ※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y248
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ジッシュウジゼン・ジゴシドウニ ----- 実習事前・事後指導II		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	三枝 昌美 長谷川 智子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育園・幼稚園の観察実習に向け、実習に臨む態度、子ども理解等準備を行う。また、実習の理念を理解し、保育者、社会人としての自覚を持つ。				
思考力・判断力・表現力	実習の目的や学習目標を明確にし、それを意識して行動する力。				
学びに向かう力	保育実習や教育実習を効果的に行うために、事前に必要な知識や心構えを学び、事後に振り返りや課題の整理を通じて成長するために、理論と実践の橋渡しをする力を身につける。				
授業の概要					
観察実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。日頃の学習の集大成が実習である。失敗を恐れず、積極的に実習に臨めるよう授業を受け、事前準備をしっかりと行う。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』 同文書院 他					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
1. 保育園・幼稚園の機能と役割	2	10. 実習後について	4		
2. 実習計画書作成	4	11. 教材作成②	4		
3. 教材研究	4	12. 教材発表	4		
4. 年中行事	2	13. 実習心構え	4		
5. 教材作成①	4	13. 振り返り まとめ	6		
6. 実習日誌の書き方	4				
7. 指導案の書き方	4				
8. 教材の選び方	4				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y251
授業科目名		授業形態		学科・コース	
オンガクニ 音楽Ⅱ		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	竹中 紀江
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	音楽Ⅰを基本とし、さらに保育現場で応用できる演奏技能、音楽表現に必要な技能を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	自分の改善点を判断し実行に移す力や、より豊かに表現できるような力を養う。				
学びに向かう力	現場で活用できる技術を習得できるように練習に励み、自ら不明な点を質問するなど意欲的な姿勢であること。				
授業の概要					
バイエル教則本、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム、等使用し、さらなる演奏技能を高め、現場で活用できる幼児音楽のレパートリーを増やし、楽しく弾き歌いをする。 幼児に素直な声で歌わせるために、発声法の技能をさらに高める。 楽譜が伝えてくれる音楽を正しく演奏するために、譜面上に記載された約束事を理論によって学ぶ。					
成績評価基準					
ピアノ、声楽の実技試験と、課題への取り組み状況による日常評価を対象とする。				実技試験	60%
				課題	20%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
音楽Ⅰ 《ピアノ教本》、《声楽教本》、教員が配布する楽譜 保育士のためのこどものうた名曲集 150					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 幼児音楽「生活のうた」	6	1. 幼児音楽「秋」	6		
2. 幼児音楽「夏」「行事のうた」	6	2. 実習に向けての課題の取り組み	6		
3. 実習に向けての課題の取り組み	6	3. 幼児音楽「冬」「いろいろなうた」	6		
4. 個々の課題の取り組み	8	4. 個々の課題の取り組み	8		
5. 課題発表	4	5. 課題発表	4		
その他		関連科目			
実務経験のある教員が担当する科目である。		音楽Ⅰ 音楽Ⅲ 幼児と音楽表現S 音楽表現(指導法) 音楽表現技術			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y253
授業科目名		授業形態		学科・コース	
リトミックイチ リトミックI		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	通年	必修	60	2	岩塚 咲子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	音楽を使って、身体的・感覚的・知的に優れた子どもたちの育成を目指し、その指導が出来るような技術を身につける。また、各年齢に合ったティーチング、リズム、リズム演奏法を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	音楽のリズムやメロディに合わせて体を動かすことで音楽と動きの関係を理解するとともに、音に合わせて瞬時に動きを変える判断力を養い、リズムに合わせて表現する豊かな感性を育てる。				
学びに向かう力	あらゆる力をバランスよく育て、楽しみながら他者と合わせたり楽しむことを大切に学びに向かおうとする姿勢が見られる。				
授業の概要					
音と身体の結びつきの理解を目的とし、リズム・即興・表現活動を通して保育に生かすリトミックの基礎を学ぶ。					
成績評価基準					
授業態度等による日常評価により決定する。 リトミック研究センター (幼稚園・保育園のためのリトミック指導者資格認定試験に基づく)				授業態度	50%
				実技試験	50%
使用テキスト・教材					
保育園・幼稚園のためのリトミック ～年間カリキュラムとその実践～					
授業内容・授業計画					
		時間数		時間数	
1. リトミックについて、楽しいリトミックの経験①	2	1. ティーチング (4歳児—1学期)	2	2. ティーチング (4歳児—2学期)	2
2. 基礎的な動き①、2拍子基礎リズム	2	3. リズムフレーズ (2・3拍子)・リズムカノン (3拍子)	4		
3. 基礎的な動き②、拍子	2	4. リズムの演奏法 (4歳児—1～2学期)	2		
4. リズムの演奏法 (3歳児指導法・1学期)	2	5. ティーチング (4歳児—3学期)	2		
5. ティーチング (3歳児指導法・1学期)	2	6. リズムカノン (3・4拍子)・複リズム①	4		
6. リズムの演奏法 (3歳児—2学期)	2	7. リズム演奏法 (4歳児—3学期・5歳児—1学期)	4		
7. ティーチング (3歳児—2学期)	2	8. ティーチング (5歳児—2学期)	2		
8. 楽しいリトミックの経験④、基礎リズム③	2	9. ティーチング (5歳児—3学期) 試験 公示	2		
9. ティーチング (3歳児—3学期)	2	10. リズムカノン・複リズム Ostinato	2		
10. リズム演奏法 (3歳児—3学期)	2	11. 1級資格認定試験	4		
11. 基礎リズム (3・4拍子)	2				
12. リズムフレーズ (2・3拍子)	2				
13. リズム演奏法 (3歳児—1～3学期)	2				
14. 2級資格認定試験	4				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y258
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ソウゴウエンシュウイチ ----- 総合演習 I		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	2	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	校内での保育実践やさまざまな園に向かう中で、こどもとのかかわる経験、保育者から学ぶ経験を増やし、実践的な経験を積む。				
思考力・判断力・表現力	これまでに学んだ各科目の知識を結びつけ、課題に応じた適切な解決策を導き出す力。				
学びに向かう力	実践的な課題やプロジェクトに取り組むことで、専門的なスキルを深化させ、社会や現場で役立つ総合力を高める。				
授業の概要					
今まで学んできたことを総合的に捉え、立案、実行、省察に繋げる。また、こどもとのかかわる経験を積み、こどもと積極的にのかかわることで学びを深める。					
成績評価基準					
授業態度、課題、提出物の状況を総合評価し、合計60点以上のものに単位を与える。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
必要に応じてプリントを配布する。					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1.	オリエンテーション		2		
2.	園研究		2		
3.	特別講座		10		
4.	園見学		14		
5.	振り返り・まとめ		4		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S05
授業科目名		授業形態		学科・コース	
オンガクヒョウゲンギジュツ 音楽表現技術S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	20	1	小林 教子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	「幼児と音楽表現」での学修を元に、より実践的な歌唱法、ピアノ演奏法、伴奏法、表現法を習得する。教育現場で必要な声楽曲や弾き歌いのレパートリーを増やす。				
思考力・判断力・表現力	自分の個性を音楽に込め、独自のスタイルを表現する力を育む。				
学びに向かう力	音楽の技術や感性を深め、個性を活かした豊かな表現を目指すために、音楽を通じて自己表現力や協調性を高め、より高度な表現力を身に付けるための力を育成する。				
授業の概要					
音楽表現の発展的スキル習得を目的とし、歌唱・即興表現を通して保育に生かす実践的な音楽技術を学ぶ。こどもの歌やコールユーブンゲンを歌うことでレパートリーを増やし音程の感覚を養う。					
成績評価基準					
授業への参加姿勢等を日常評価として (20%)、実技試験 (80%) で成績評価とする。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				実技試験	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
「音楽 (声楽教本)」近畿大学九州短期大学通信教育部 配布 「音楽 (ピアノ教本)」近畿大学九州短期大学通信教育部 配布					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1. 基礎練習			2		
2. 音程			2		
3. コールユーブンゲン			4		
4. ピアノ弾き歌い			6		
5. こどもの歌			2		
6. コンコーネ			2		
7. 実技試験			2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S06
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヨウジトゾウケイヒョウゲン 幼児と造形表現S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	望月 裕史
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	様々な素材や表現方法を通して自己表現する楽しさを知り、表現者として主体的に取り組む。				
思考力・判断力・表現力	色や形、質感の違いに気づき、さまざまな視点で物事を見る力を育てる。				
学びに向かう力	幼児の造形表現への理解を深め、豊かな創造性を育み、必要な援助と成長を見守ることができる保育者の育成と、実践的造形教育指導の習得を目指す。				
授業の概要					
幼児の造形表現を支える実技力の習得を目的とし、多様な素材を用いた制作活動を通して表現援助と環境づくりを学ぶ。					
成績評価基準					
授業内で提示する課題提出と授業態度等の状況による日常評価を対象とする。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				日常評価	30%
				課題提出	70%
使用テキスト・教材					
「図画工作」近畿大学九州短期大学配布 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領 (最新版)」					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1.	身近な素材を使つての制作		2		
2.	0歳～3歳の子どもの絵		2		
3.	3歳～6歳の子どもの絵と造形		2		
4.	子どもの作品から見えてくるもの		2		
5.	素材と技法の活用		2		
6.	創作への展開		2		
7.	オリジナル作品制作		4		
8.	作品発表と鑑賞・まとめ		2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S10
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヨウジトケンコウ 幼児と健康S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	小野 昌佳
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	「今の時代を生きる子どもたち」に対する運動遊びのもつ教育的意義について理解する。				
思考力・判断力・表現力	幼児の発育や成長に関する基礎的な知識を学ぶ。				
学びに向かう力	各種の運動遊びを素材とした指導計画の作成や、「ねらい」を実現するために必要な知識や技術を習得する。				
授業の概要					
幼児の身体機能の発達に必要な実技力の習得を目的とし、運動遊び・身体表現などを実践的な演習を通して学ぶ。					
成績評価基準					
授業態度、実技試験、課題レポートの結果を総合評価する。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				実後試験	40%
				レポート	40%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
授業内で提示 製作セット					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1.	オリエンテーション		2		
2.	コミュニケーションゲーム		2		
3.	乳幼児期の運動発達・運動あそび		4		
4.	授業内で各運動につながる、廃材でできる手作りおもちゃ		2		
5.	運動遊びの指導計画テーマ検討		4		
6.	運動遊びの指導計画の実践		2		
7.	指導計画のテーマについて情報収集		2		
8.	まとめ		2		
その他			関連科目		
実務経験がある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S14
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ショウガイジホイク 障がい児保育S		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	工藤 豪
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	障がい児保育の目的・意義・形態について理解する。 障がい児保育の実態や障がい児のいる世帯の生活実態について理解する。				
思考力・判断力・表現力	さまざまな特性をもつ子どもの個性やニーズを考えることができる。 どのような工夫や配慮が必要とされるのかを考えることができる。				
学びに向かう力	自分から積極的な姿勢で資料解釈作業に取り組むことができる。 グループメンバーと協働して問題の考察に取り組むことができる。				
授業の概要					
障がいの定義や捉え方、障がい児保育の目的や意義に関する理解を踏まえて、分離保育と統合保育の関係性や課題について考える。また、障がい児保育・療育の歴史と展開を把握するとともに、集団援助の場面における保育者の意図についての理解を深めていく。さらに、実態調査結果を踏まえ、障がい児保育の実態や障がい児のいる世帯の生活実態について学習する。					
成績評価基準					
確認作業（確認作業）、作業プリントやリアクションペーパーの内容等（課題）、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など（学習意欲）、以上から総合的に評価する。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				確認作業	50%
				課題	25%
				日常評価	25%
使用テキスト・教材					
尾崎康子ほか編、2018、『よくわかる障害児保育 第2版』ミネルヴァ書房 教員により Teams に配信される講義資料					
授業内容・授業計画					
1. オリエンテーション・障がいの定義と捉え方	2	6. 障がい児保育の実態	2	7. 障がい児のいる世帯の生活実態	2
2. 障がい児保育の目的と意義	2	8. 保育所における医療的ケアの実態	2	9. 障害のある子どもに対する集団援助	2
3. 障がい児保育の形態 —分離保育と統合保育—	2	10. 総括と確認作業	2	—遊びを通して—	
4. 障害児保育・療育の歴史と展開	2				
5. 発達支援の技法—TEACCHプログラム—	2				
その他	関連科目				
	幼児への特別な支援				

シラバス (授業概要)		時間数は 45 分換算		年度	2026 年度
				科目コード	NJB26Y2S17
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コドモノシヨクトエイヨウ 子どもの食と栄養S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	吉川 直美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	小児の発育・発達特性、栄養に関する基本的な知識を踏まえ、小児期における心身の発達段階に応じた栄養法、集団給食（保育所給食）、食教育の重要性を理解すること。				
思考力・判断力・表現力	食材の種類や栄養素の働きを理解し、バランスの取れた食事の大切さを知る。				
学びに向かう力	保育者として小児に適切な食事を提供することができるよう、各時期の栄養法を理解し、調理技能の修得を目指す。				
授業の概要					
こどもの成長を支える食と栄養の理解を目的とし、発達段階に応じた食支援や食育の基本を踏まえ、保育での実践方法を学ぶ。					
成績評価基準					
成績は、実習態度等の日常評価と課題提出を総合的に勘案して評価する。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
新 保育ライブラリ 子どもの食と栄養 新版 (北大路書房) 子どもの食と栄養 第3版 保育現場で活かせる食の基本 (羊土社)					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 乳幼児期の授乳栄養について	2	8. 特別な配慮を要する子どもの食と栄養について	2		
2. 調乳実習	2	9. 食物アレルギー対応の実習	2		
3. 離乳栄養について	2				
4. 離乳食実習	2				
5. 幼児期の栄養について	2				
6. 幼児食実習	2				
7. 調理保育実習	4				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S18
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シャカイテキョウゴニスクーリング 社会的養護ⅡS		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	20	1	工藤 豪
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	児童虐待の実態・特徴と制度的対応について理解する。 パーマネンシー保障や特別養子縁組における日本の課題について理解する。				
思考力・判断力・表現力	歴史的な経緯や現状の課題と法制度の関係性を意識する力を身につける。 社会現象や諸問題の背景にある文化や慣習を認識する力を身につける。				
学びに向かう力	自分から積極的な姿勢で資料解釈作業に取り組むことができる。 グループメンバーと協働して問題の考察に取り組むことができる。				
授業の概要					
社会的養護Ⅰで学習した基本的知識を踏まえ、児童虐待における特徴や被措置児童等への対応について考える。また地域社会の乳児院・児童養護施設の現状を把握するとともに、こうのとりのゆりかごや特別養子縁組に関する課題を考えながら、現代社会の社会的養護を担う保育者・養育者としての役割を果たせるよう、多角的視点から理解を深めていく。					
成績評価基準					
確認作業 (確認作業)、作業プリントやリアクションペーパーの内容等 (課題)、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など (学習意欲)、以上から総合的に評価する。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				確認作業	50%
				課題	25%
				日常評価	25%
使用テキスト・教材					
『MINERVA はじめて学ぶ子どもの福祉5 社会的養護』(2018、伊藤嘉余子・福田公教編著、ミネルヴァ書房) 教員により Teams に配信される講義資料					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション 社会的養護に求められる専門性	2	6. 地域社会の子どもと養護 (1) ー静岡県における措置児童の現状ー	2		
2. 社会的養護の現状 ー虐待を受ける子どもの増加ー	2	7. 地域社会の子どもと養護 (2) ー静岡県の乳児院と児童養護施設ー	2		
3. 児童虐待 (1) ー近年における実態と制度的対応ー	2	8. パーマネンシー保障について	2		
4. 児童虐待 (2) ー被措置児童等の虐待に関する現状と課題ー	2	9. 「こうのとりのゆりかご」と特別養子縁組について	2		
5. 児童虐待 (3) ー虐待を受けた子どもへの対応に関する事例考察ー	2	10. 総括と確認作業	2		
その他		関連科目			
		社会的養護Ⅰ			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S19
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ニュージホイクニ 乳児保育ⅡS		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	3歳未満児の発育・発達のプロセスや特性を踏まえた援助や関わりについての基本的な考え方について理解する。				
思考力・判断力・表現力	乳児の成長や発達を支えるために、愛情を持って寄り添い、柔軟に対応するために、観察力や対応力、保護者との信頼関係など、多くのスキルを身につけ、乳児の心身の発達を支援し、将来の自立に向けた大切な基盤を作る。				
学びに向かう力	養護及び教育の一体性を踏まえ、3歳未満児の子どもの生活や遊びと保育の方法及び環境について、具体的に理解する。				
授業の概要					
乳児保育の実践力向上を目的とし、生活・遊び・健康支援の援助方法を演習や事例検討を通して学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
はじめて学ぶ乳児保育 第四版 (同文書院)					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
1. 子どもと保育士等との関係の重要性	2	7. 子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮	2		
2. 個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的な関わり	2	8. 集団での生活における配慮、環境の変化や移行に対する配慮	2		
3. 子どもの主体性の尊重と自己の育ち	2	9. 長期的な指導計画と短期的な指導計画	2		
4. 子どもの体験と学びの芽生え	2	10. 個別的な指導計画と集団の指導計画	2		
5. 子どもの生活や遊びを支える保育環境の構成	2				
6. 3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊びと援助の実際	2				
その他		関連科目			
※実務経験のある教員が担当する科目である。		乳児保育Ⅰ			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S22
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コソダテシエン 子育て支援S		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	工藤 豪
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保護者との信頼関係構築に向けて必要となる視点・方法を理解する。 子育て支援の取組や子育て家庭への経済的支援について理解する。				
思考力・判断力・表現力	歴史的な経緯や現状の課題と法制度の関係性を意識する力を身につける。 社会現象や諸問題の背景にある文化や慣習を認識する力を身につける。				
学びに向かう力	自分から積極的な姿勢で資料解釈作業に取り組むことができる。 グループメンバーと協働して問題の考察に取り組むことができる。				
授業の概要					
自己決定・受容と共感・自己開示などをキー概念として、保護者との信頼関係構築に向けてどのような視点・方法が必要となるのかを考えるとともに、保護者に対する相談援助を実践していくにあたり、必要となる態度・技法について学習する。また、子育て支援に関する取組への認識を踏まえ、自治体における出生率と子育て支援の関係性について理解を深める。					
成績評価基準					
確認作業 (確認作業)、作業プリントやリアクションペーパーの内容等 (課題)、授業時の受講態度やグループ考察時の参加姿勢など (学習意欲)、以上から総合的に評価する。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				確認作業	50%
				課題	25%
				日常評価	25%
使用テキスト・教材					
小野崎佳代・石田幸美編著、2020、『保護者支援・子育て支援 (MINERVA 保育士等キャリアアップ研修テキスト)』、ミネルヴァ書房。 教員により Teams に配信される講義資料					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. オリエンテーション・保護者との信頼関係構築に向けて	2	6. 自治体における子育て支援の取り組み事例	2		
2. 自己開示とリフレーミング	2	7. 自治体における出生率と子育て支援の関係性	2		
3. 相談援助における基本的な面接技法	2	8. 子育て家庭に対する経済的支援	2		
4. 保護者を理解するための情報収集 ージェノグラムの作成ー	2	9. 所得制限を付けることの是非と児童手当の拡充について	2		
5. わが国の子育て支援に関する取り組みの特徴と課題	2	10. 総括と確認作業	2		
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S24
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクジッシュウジゼンジゴンドウイチ (ホイク) 保育実習事前事後指導 I (保育所)S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	小笠原 香奈
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能		実習の理念を理解し、保育者、社会人としての自覚を持つ。			
思考力・判断力・表現力		保育現場での具体的な行動計画を立て、目的意識を持って実習に臨むために、実習前に自分の目標を具体的に設定し、成長に向けた明確なビジョンを持つ力。			
学びに向かう力		保育実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。			
授業の概要					
観察実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。日頃の学習の集大成が実習である。失敗を恐れず、積極的に実習に臨めるよう授業を受け、事前準備をしっかりと行う。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』 同文書院 他					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 保育園の一日／実習生の心構え		2			
2. 子どもの発達と注意点		4			
3. 乳児保育の実際／乳児の援助方法		4			
4. 実習日誌・部分実習案の書き方		6			
5. 保育実習に向けての準備		4			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			保育実習 I (保育) S		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S25
授業科目名			授業形態		学科・コース
ホイクジッシュウジゼンゾゴンドウイチ (シセツ) 保育実習事前事後指導 I (施設)S			演習	対面	こども保育科
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	前期	必修	20	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育所以外の児童福祉施設の役割や機能・目的について理解する。また、各施設の対象児童・利用者についての特徴や援助法について学び、基礎知識を身につける。				
思考力・判断力・表現力	保育現場での具体的な行動計画を立て、目的意識を持って実習に臨むために、実習前に自分の目標を具体的に設定し、成長に向けた明確なビジョンを持つ力。				
学びに向かう力	保育者、社会人としての自覚を持ち、施設実習を円滑におこなうために、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。				
授業の概要					
施設実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。日頃の学習の集大成が実習である。失敗を恐れず、積極的に実習に臨めるよう授業を受け、事前準備をしっかりと行う。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』 同文書院 他					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1. 施設実習の意義と目的 / 体験してみよう (視覚障害)			4		
2. 乳児院・児童養護施設の役割と存在意義 利用児の特性			4		
3. 障害児 (者) 施設の役割と存在意義 利用児 (者) の特性			4		
4. 施設職員としての役割と専門性			2		
5. 施設利用児の人権と最善の利益			2		
6. 施設研究			4		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			保育実習 I (施設) S		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S26
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクジッシュウイチ (ホイク)		実習		こども保育科	
保育実習 I (保育所)S					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	60	2	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育士として必要な資質・能力・技術の向上を課題とし、これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	子どもの表情や遊び方から、どのような支援が必要かを見極める。				
学びに向かう力	実習の目的を認識し、実習園の指示に従いながら、目的を達成するために真剣に実習に取り組む。				
授業の概要					
保育所での実践的理解を深めることを目的とし、観察実習を通して、こども理解・援助・環境構成などの保育実践力を学ぶ。保育所にて2週間の実習を行う。					
成績評価基準					
実習態度、課題、提出物の状況を総合評価し、決定する。 ※実習不合格の場合は不可とし、再実習とする。				課題	30%
				実習評価	70%
使用テキスト・教材					
授業内容・授業計画					
1. 保育園での実習		時間数	60		時間数
その他		関連科目			
※実務経験のある教員が担当する科目である。		保育実習事前事後指導 I (保育) S			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S29
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウイクジッシュウジベンジゴシドウ 教育実習事前事後指導S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	20	1	佐藤 友美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	実習の理念を理解し、保育者、社会人としての自覚を持つ。保育実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。				
思考力・判断力・表現力	実習の目的や意義をしっかりと理解し、それに沿った準備や振り返りを行う力。				
学びに向かう力	実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。				
授業の概要					
観察実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。日頃の学習の集大成が実習である。失敗を恐れず、積極的に実習に臨めるよう授業を受け、事前準備をしっかりと行う。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』 同文書院 他					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1. 実習の理念 (意義・目的・内容)、幼稚園・保育所・こども園の違い			2		
2. 幼稚園の一日/実習生の心構え			4		
3. 実習に向けての諸注意			4		
4. 実習日誌・部分実習案の書き方			6		
5. 子どもの発達と注意点			4		
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。	教育実習①S、教育実習②S				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y2S30
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウイクジツシュウ 教育実習①S		実習		こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
2	後期	必修	30	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	専門科目で習得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していく。				
思考力・判断力・表現力	子どもの行動や反応を観察し、学びの状況を適切にかかわる力。				
学びに向かう力	見学・観察実習を主とする実習を行い、幼児教育の理解を深める。				
授業の概要					
幼稚園教育の基礎理解を目的とし、観察実習を通して、こども理解や活動内容、教師としての基本的態度と初歩的な実践力を学ぶ。幼稚園にて1週間実習（観察実習）を行う。					
成績評価基準					
実習態度、課題、提出物の状況を総合評価し、決定する。 ※実習不合格の場合は不可とし、再実習とする。				課題	30%
				実習評価	70%
使用テキスト・教材					
適宜					
授業内容・授業計画					
1. 幼稚園での実習			時間数 30	時間数	
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			教育実習事前事後指導S		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y306
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シュウカツゼミサン 就活ゼミⅢ		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	就職活動をスムーズに行うため、就職活動の基礎を振り返り、履歴書作成や就活ポータルサイトの使い方を身につける。				
思考力・判断力・表現力	自分の強みをアピールするための表現力を身につける。 自分に合う就職先を探すために求める就職を具現化できようになる。				
学びに向かう力	自分の将来の事を真剣に考え、自ら行動を起こすことができるようになる。				
授業の概要					
就職活動をスムーズに行うための基礎知識を身につける。 保育観の合う園を探し、納得のいく就職ができるよう就職活動をしていく。					
成績評価基準					
授業時に提示する履歴書作成等の課題評価、授業態度等の日常評価で評価する。				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
Career Guidebook2027 (就活ノート)					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. 働くということ・社会人としての自覚		2			
2. 業界研究・施設研究とは		4			
3. 履歴書の書き方		4			
4. 就職活動における情報収集		4			
5. 求人票の見方、福利厚生とは		2			
6. 園見学		8			
7. 内定後の過ごし方		4			
8. まとめ		2			
その他		関連科目			

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y309
授業科目名			授業形態		学科・コース
コミュニケーションアウト・ウチン コミュニケーション活動Ⅲ			演習	対面	こども保育科
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	学生相互及び、教員とのコミュニケーションを深めるとともに、集団生活におけるコミュニケーション能力を身に付けることを目的とする。				
思考力・判断力・表現力	自分の言動により周りにどのような影響があるか考える力や、自分で判断し臨機応変に対応できるスキルを付ける。				
学びに向かう力	保育教諭にとって必要なコミュニケーション能力を付けることの重要性を理解し意欲を持って取り組む。				
授業の概要					
特別講座や縦割り活動、クラス活動など、通常の科目の学習を越えたさまざまな学習活動を行う。					
成績評価基準					
出欠席と授業態度により評価する					出欠席 90%
					学習意欲 10%
使用テキスト・教材					
なし					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. オリエンテーション			2		
2. 縦割り交流			4		
3. 実習報告会			8		
4. 防災訓練			2		
5. 縦割り交流			4		
6. グループワーク			6		
7. まとめ			4		
その他			関連科目		
			コミュニケーション活動Ⅰ		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y313
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シキサイガク 色彩学		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	久保田 覚
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	子どもほどの心理状態の時にどのような色を選ぶのか、心理的な働きを学ぶとともに、色彩の基本を学ぶことで、保育の現場で実際に使える色彩表現を理論と共に習得すること。				
思考力・判断力・表現力	自分の色使いやデザインに対して、他者の意見を取り入れながら改良する力を養う。				
学びに向かう力	色の持つ感情的な効果や心理的な影響を学び、作品に豊かな表現を与える力を養う。				
授業の概要					
色の基本や心理的効果を学ぶことにより、仕事や日々の生活に役立てることを目指す。特に保育の現場の色彩として、子どもの表現活動における色彩や環境構成における色彩と結びつけて考えられるようにしていく。					
成績評価基準					
期末試験・課題・授業態度を総合的に評価し、成績を算出する。				筆記試験	50%
				課題	45%
				日常評価	5%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・教科書/「カラーコーディネーター入門 色彩」 日本色研事業 ・教材/配色カード158a 日本色研事業 					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 色の基本 (色の三属性)	2	11. 色彩調和/基本の配色			2
2. 色彩の心理/色の持つ効果	2	12. 色彩調和/配色の応用			2
3. 色彩の基礎/色相環、トーン	2	13. 対比と同化/色彩心理の諸現象			2
4. 混色の基本/混色で作る色	2	14. 課題3. 色彩構成 季節のイメージ			2
5. 課題1. 絵の具実習① (虹の色を作る)	2	15. まとめ			2
6. 課題1. 絵の具実習② (虹色による色彩構成)	2				
7. 課題1. 絵の具実習③ (仕上げ、講評)	2				
8. 色覚について/眼の仕組みと働き	2				
9. 好悪色について	2				
10. 課題2. クレヨン実習/スクラッチング	2				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y314
授業科目名		授業形態		学科・コース	
セイカツトケイザイ 生活と経済		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	15	1	竹内 大貴
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	お金に関する幅広い知識を学び、将来の生活設計に活かすことができるようになる。				
思考力・判断力・表現力	収入と支出をバランスよく管理し、生活設計のために正しい判断を下す力を学ぶ。				
学びに向かう力	より良い生活設計や社会的な意思決定ができる力を育むことで、経済的な知識を深め、日々の生活に役立つスキルを身に付ける。				
授業の概要					
先々に起こるライフイベントのための事前準備として、健康保険・年金・金融資産運用（預金・投資信託・外貨・株式など）・フィンテックなど、分野に分けてお金に関する知識を学ぶ。					
成績評価基準					
期末試験と授業中の状況にて総合的に評価する。				筆記試験	80%
				日常評価	20%
使用テキスト・教材					
自作プリント					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. ライフイベント・バランスシート作成		2			
2. 医療保険・年金制度・雇用保険		2			
3. 住宅ローン・教育ローン		2			
4. クレジットカードワークブック		2			
5. 保険制度・生命保険・損害保険・第3分野の保険		2			
6. 金融経済の基礎知識・預貯金		2			
7. 債券・投資信託		2			
8. 外貨・フィンテック		1			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y315
授業科目名		授業形態		学科・コース	
トータルイメージアップ		講義・実技	対面	こども保育科	
トータルイメージアップ					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	2	根上 裕恵(ネガミ ヒロエ)
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	自身の隠れた魅力 能力や、表現力を引き出し、コミュニケーション技術やスピーチ等 さまざまな自己印象を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	他人から見た自分を理解する・表情・発声・立ち居振る舞い・歩き方・心と向き合う				
学びに向かう力	自身を客観視する。恥ずかしがらず実践に取り組む。他人の良いところを観察し取り入れる。				
授業の概要					
第一印象の大切さを理解し、他者に与える自身の印象をより良くコントロールするために必要な顔の表情、発声、姿勢、立ち居振る舞い、話し方、対人スキル、マナー等を実践を交え学び、トータルイメージアップを目指します。					
成績評価基準					
講義課題の評価点 授業への取り組みと学習意欲・スピーチ等を総合評価したうえで決定する。				実技	15%
				取り組み	30%
				課題	15%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
<ul style="list-style-type: none"> ・印象管理 トータルヒューマンプロデュース 有限会社グロー ・印象管理 自分プロデュース トータルヒューマンプロデュース 有限会社グロー ・課題 (自作) ・ロールプレイング用教材(自己所有物) 					
授業内容・授業計画					
		時間数			
1. アイスブレイク		2	9. 聴覚管理：スピーチ		2
概論：トータルイメージアップについて			10. マナー：動作の基本		4
2. 第一印象		2	11. 対人スキル：コミュニケーション		2
3. 視覚管理：顔の表情		2	12. 心と向き合う		4
4. 視覚管理：身体の表情		2	13. まとめ・振り返り		2
5. 視覚管理：装い		2			
6. 視覚管理：色を見方につける		2			
7. 視覚管理：姿勢 立ち居振る舞い 所作		2			
8. 聴覚管理：声と話し方		2			
その他			関連科目		
※メンタルヘルスの分野は専門分野のグロー講師：村上浩江先生が担当					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y318
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ビジネスソフトサン		演習	対面	こども保育科	
ビジネスソフトⅢ					
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	30	1	石上 美季子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	卒業後、幼稚園・保育園で使う書類や、保護者向けのお便り作成などの ICT 活用の即戦力として働けるよう応用編を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	状況に適した ICT を活用、対象者にわかりやすい資料等作成ができるスキルを身につける。				
学びに向かう力	保育業界へ就職後も、文書作成や情報のデータ化などの業務に活かせるようにする。				
授業の概要					
卒業後、幼稚園・保育園で使う書類や、保護者向けのお便り作成などの ICT 活用の即戦力として働けるよう応用編を学習する。					
成績評価基準					
日々の授業態度や出欠席と授業内に行う課題の評価により評価する。				課題	60%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
30 時間でマスター WORD&EXCEL 2021					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1.	保育業界での Word 活用		8		
2.	保育業界での Excel 活用		8		
3.	保育業界での PowerPoint 活用		8		
4.	保育と ICT		4		
5.	まとめ		2		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y330
授業科目名		授業形態		学科・コース	
セイネンシンリガク 青年心理学		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	佐々木 宏美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	自分が置かれている青年期の特徴を良く理解し、生活に生かす。				
思考力・判断力・表現力	自己表現や新しい価値観の模索を行う青年に対して、サポートする環境を整える。				
学びに向かう力	心理的発達や課題を理解し、適切なサポートや支援を行うために、青年特有の心理的な成長や変化を捉え、適切に対応する力を身につける				
授業の概要					
グループワークを通して、仲間相互のコミュニケーションを深める人間関係を学び、4月からの社会人としても生活に期待を持つ。					
成績評価基準					
授業態度、試験の結果を総合的に判断する。				筆記試験	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
授業内で紹介する					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1.	自己紹介	授業の進め方の説明	2		
2.	組全員の質問		2		
3.	序章	青年期を理解する	4		
4.	第1部	青年期の自我発達と恋愛	4		
5.	第2部	青年期の人間関係	2		
6.	第3部	青年と社会	4		
7.	終章	自我発達から見た成人期と老年期	4		
8.	選択理論心理学		2		
9.	まとめ		4		
			2		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y346
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイク・キョウシヨクジッセンエンシユウ 保育・教職実践演習		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	15	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育者を目指す学生として、自分を見つめ直し、現在の自分自身の実態と課題を明確にする。				
思考力・判断力・表現力	子ども一人ひとりの特性や状況に応じて柔軟に対応し、保育現場で直面する課題を観察し、適切な解決方法を導き出す力を身につける。				
学びに向かう力	保育現場での実践力を高め、子どもたちの成長に寄り添うために必要なスキルや知識を深め、柔軟に適応する力を身につける。				
授業の概要					
保育教諭としての実践的力量的形成を目的とし、保育現場で求められる課題解決力や専門的判断を演習を通して学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				試験	30%
				課題	30%
				日常評価	40%
使用テキスト・教材					
短大テキスト、必要に応じてプリントを配布する。 履修カルテ					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 実践演習の位置づけと制度		2			
2. 実習の振り返り		2			
3. 保育者の専門性の発達と「実践演習」		4			
4. 保育の現場から		3			
5. 使命感や責任感、教育的愛情及び倫理観		4			
その他		関連科目			
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y349
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ジッシュウジゼン・ジゴンドウサン 実習事前・事後指導Ⅲ		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	60	2	三枝 昌美 佐藤 友美 小笠原 香奈
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育園・幼稚園の責任実習に向け、実習に臨む態度、子ども理解等準備を行う。また、実習の理念を理解し、保育者、社会人としての自覚を持つ。				
思考力・判断力・表現力	実習を受ける意義を理解し、自分にできること、自ら行動することができるよう判断し的確に行動する力を付ける。 自分の得意なことを現場で活かせるよう				
学びに向かう力	座学では学べない現場での知識や子どもとの関わりを意欲的に学ぼうとする。				
授業の概要					
責任実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。今までの学習の集大成が実習である。失敗を恐れず、積極的に実習に臨めるよう授業を受け、事前準備をしっかりと行う。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』 同文書院 他					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 保育者の役割		2	9. 教材作成②		4
2. 教材研究		4	10. 施設実習とは		4
3. 主活動とは		4	11. 児童福祉施設とは		4
4. 教材作成①		2	12. 実習園 (施設) の理解		4
5. 実習日誌の書き方 (エピソード記録)		4	13. 振り返り まとめ		6
6. 指導案の書き方 (責任実習)		4			
7. 子どもの発達段階		4			
8. 指導案立案		4			
その他		関連科目			
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y352
授業科目名		授業形態		学科・コース	
オンガクサン 音楽Ⅲ		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	60	2	小林 教子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	音楽Ⅰを基本とし、保育現場で応用できる演奏技能、音楽表現に必要な技能を学ぶ。 合唱・合奏を通じて個々の能力を高め合い音楽の楽しさを知る。				
思考力・判断力・表現力	技術的な課題を自分なりに考え、解決していく力や、指の動きなど正確な演奏技術を身に付け豊かな表現力を養う。				
学びに向かう力	現場に行った際必要となるピアノ技術を取得できるように練習に励み自ら不明な点を聞くなど意欲的な姿勢であること。				
授業の概要					
<p>器楽 (ピアノ) →バイエル教則本を基礎としたテキスト、ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバムを使用し、基礎技能と共に、幼児音楽を楽しく弾き歌いする。</p> <p>声楽→幼児に素直な声で歌わせるために、発声法の技能を高めよう。</p> <p>楽典→幼児の音楽に必要な基礎的知識、楽譜が伝えてくれる「音楽」をできるだけ正しく演奏するために、譜面上に記載された約束事を理論によって学ぶ。</p>					
成績評価基準					
器楽 (ピアノ)、声楽の実技試験の結果と日常評価を総合評価した上で決定する。				日常評価	50%
				実技試験	50%
使用テキスト・教材					
音楽Ⅰ《ピアノ教本》、《声楽教本》ブルグミュラー25の練習曲、ソナチネアルバム こどものうた大百科～簡易ピアノ伴奏全302曲～、プリント、ジュニアクラスの楽典問題集					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 幼児音楽「生活の歌」		2	1. 幼児音楽「秋」		4
2. 幼児音楽「春」		4	2. 幼児音楽「冬」		4
3. 幼児音楽「夏」		4	3. 幼児音楽「卒園ソング」		4
4. 課題テストに向けて (ピアノ演奏、弾き歌い)		4	4. 課題テスト (ピアノ演奏、弾き歌い)		2
5. 実技試験		1	5. 実技試験		1
1.					
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y354
授業科目名		授業形態		学科・コース	
シュワ 手話		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	1	沼津市手話通訳者の会 上杉美揮子 他
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	手話の技術と障害者問題や聞こえないことを学ぶことにより、卒業後、それぞれの進路(職場や地域)で、自らが障害者に対する理解者になること。				
思考力・判断力・表現力	学生が主体的に参加する授業、グループ討議等で意見交換し話し合いながら、考える力・伝える力を身につける。				
学びに向かう力	聞こえないことで感じている不便さや大変さを知り、聴覚障害者が来院した際、保育現場ではどう対応するべきか想像しながら手話を学ぶ姿勢を育む。				
授業の概要					
<p>毎回、講義と手話の実技とをセットで行う。</p> <p>講義では、聴覚障害者を取り巻く環境や制度、障害者観を学ぶ。また、沼津市聴覚障害者の会の聴覚障害者当事者から、聞こえないことで不便なこと・困っていること・学生に伝えたいことなどを話していただき聴覚障害者と交流することで、伝える・伝わったことを体験してもらう。</p>					
成績評価基準					
期末試験は、講義から出題する筆記試験と、手話の読み取り試験を行う。また、感想文の提出を総合的に評価する				筆記試験	80%
				レポート	20%
使用テキスト・教材					
・沼津市手話通訳者の会作成のテキスト					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
1. 手話を学ぶにあたって 手話の基本	2	8. 手話実技 障害者観②	2		
2. 手話の基礎知識 手話実技	2	9. 手話実技 手話実技の総復習	2		
3. 手話実技 聴覚障害者の生活体験から①	2	10. 会話文 ろう重複・盲ろうについて	2		
4. 聴覚障害者の生活体験から② 手話通訳とは・・・立場と役割	2	ろう重複障害 生活体験から			
5. 手話実技 当事者から学ぶ	2	11. 講義の授業を振り返って 手話実技	2		
6. 手話実技・手話言語条例 聴覚障害者の生活体験③	2	12. 試験	2		
7. 手話実技 障害者観①	2	13. 聴覚障害者と交流しましょう	2		
		14. 聴覚障害者と話しましょう	2		
		15. グループ討議	2		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y356
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウザイケンキュウ 教材研究		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	60	2	佐藤 友美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育園や幼稚園で活動や指導をする際、教材研究が必須となる。対象となる子どもに合わせ準備ができるよう様々な知識を習得するとともに、柔軟な対応ができる思考力を養う。				
思考力・判断力・表現力	教材の意図や目的を分析し、子どもの成長に効果的であるかどうかを見極める。また適切な内容にするための視点を持ち、具体的なアイデアを考える。				
学びに向かう力	子どもの学びの効果を高めるために、単なる知識伝達ではなく、深い学びや自律的な学習を支える力を身に付ける。				
授業の概要					
教材研究には、いろいろな方法がある。製作を例に挙げても、何を作るか、保育者がどこまで準備をするか、材料は何を使うか、道具は何を用いるのか、1日でどこまで進めるか等、検討することはさまざまである。授業の前半は、いろいろな知識の習得、後半は実践を重ねて学んでいく。					
成績評価基準					
授業態度、課題提出の状況を総合評価し、合計60点以上のものに単位を与える。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
授業内で提示					
授業内容・授業計画					
1. 「教材研究」とは	2	10. 遊具	2		
2. 道具 (着色・描くもの)	2	11. 玩具	2		
3. 道具 (切るもの)	2	12. 子どもに適した活動とは	2		
4. 道具 (貼るもの)	2	13. 教材研究 (グループワーク) 製作	10		
5. お道具箱とは	2	14. 教材研究 (グループワーク) 遊び	10		
6. 素材 (廃材)	2	15. 教材研究 (グループワーク) 行事	10		
7. 素材 (紙)	2	16. まとめ	4		
8. 素材 (その他)	2				
9. こどもの発達に合った準備とは	2				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y359
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ソウゴウエンシュウニ ----- 総合演習Ⅱ		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	3年間の集大成として、保育に関する総合的な学習能力を習得する。今まで学んできた保育・教育にかかわる課題の中から、さらに伸ばしたいものを自ら選び極めていく。				
思考力・判断力・表現力	どのような行動をしたら保育者にふさわしいのか自分自身で考え、臨機応変に判断できる力を養う。				
学びに向かう力	保育業界に求められている能力を理解し、そこまで達成しようという姿勢がある。				
授業の概要					
保育者にも得手不得手がある。自らの強み・弱みを受け止め、自分の課題に向き合い授業を進めていく。 3年間の集大成として、保育に関する総合的な学習能力を習得する。					
成績評価基準					
授業態度、成果物の状況を総合評価し、合計60点以上のものに単位を与える。				課題	40%
				日常評価	60%
使用テキスト・教材					
授業内で提示					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 実習報告		2			
2. 自らの強み・弱み		2			
3. 課題探求		2			
4. グループ作成課題に取り組む		20			
5. 成果発表		4			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y361
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ヒシヨケンテイ 秘書検定		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	30	2	遠藤 茂瑚
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	社会で働くうえで、互いに気持ちよく、効率よく仕事を進めるために必要な考え方や行動を理解する。これまでに履修したビジネスマナー（言葉づかい・態度・振る舞い・身だしなみ等）を基礎とし、秘書技能検定で求められる知識や技能を体系的に修得する。				
思考力・判断力・表現力	保育現場では、子どもだけでなく保護者や同僚との円滑な関わりが求められる。状況に応じた適切な言動を判断し、相手に配慮した表現や対応ができる力を養うとともに、社会人としての基本的なマナーを実践的に身につける。				
学びに向かう力	これまで学んできたビジネスマナーを再確認し、自らの課題を見つけながらさらにブラッシュアップできるよう主体的に取り組む。 また、秘書技能検定合格を目標とし、継続的な努力を重ねる姿勢を育てる。				
授業の概要					
本授業では、これまでに学んだビジネスマナーを基礎として、秘書技能検定の内容に沿いながら、社会人として必要な実践的能力を身につける。言葉づかい、敬語、来客応対、電話応対、報告・連絡・相談などの基礎技能に加え、状況判断力や相手への配慮といった秘書検定で求められる考え方を学ぶ。単なる知識の習得にとどまらず、演習や事例を通して実践力を高める。また、保育現場における保護者対応や職員間の連携を意識し信頼される保育者としての態度や表現力を養うとともに、秘書技能検定合格を目標に学習を進める。					
成績評価基準					
出席、授業への意欲による日常評価と授業内で行う模擬テストの平均、検定試験の結果を対象とする。				日常評価	30%
				模擬試験	60%
				検定結果	10%
使用テキスト・教材					
秘書検定3級実問題集／実務技能検定協会 講師用意の資料					
授業内容・授業計画					
ガイダンス ・秘書検定とは 【理論編】 1. 必要とされる資質 2. 職務知識 3. 一般知識 【実技編】 4. マナー・接遇 (択一式) 5. マナー・接遇 (記述式) 6. 技能 (択一式) 7. 技能 (記述式)	時間数 2 2 2 4 4 4 4 4	8. 過去問題模擬テスト	4		
その他	関連科目				
検定資格保持教員が担当する科目である。	ビジネスマナー トータルイメージアップ				

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y362
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクシャジュンビコウザ 保育者準備講座		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	30	2	長谷川 智子 小笠原 香奈 佐藤 友美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育・教育分野への就職を強く意識し、4月から担任になることを想定し、現在出来る準備を行う。				
思考力・判断力・表現力	即戦力として自分が何をしたらいいか即座に対応できるスキルを身に付ける 臨機応変に行動できるようにする。				
学びに向かう力	保育者になることへの意識を高め、自ら様々な知識を付けようとする。				
授業の概要					
実際に自分が保育現場で働くことを想定し、クラス運営に必要な教材作りを行う。 また一つひとつの活動 (歌、手遊び、朝の会、帰りの会、主活動) 別に指導案を立て、活動のねらいや内容を検討する力を身につける。また担任の立場を味わい、自覚を持てるようにする。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 				課題	40%
				日常評価	60%
使用テキスト・教材					
授業内で提示					
授業内容・授業計画					
	時間数		時間数		時間数
1. 保育者になる意識、自覚を持つ	2	9. 部分実習指導案 (歌・朝の会・帰りの会・食事)	2		
2. 担任業務について・連絡帳・お便りの書き	2	10. 担任ごっこ (指導案に添って実際に保育を行う)	4		
3. 指導計画案の立て方 (年間・月案・週案・日案)	2	11. こどもに人気な遊び	2		
4. 保育現場に必要な教材制作	4				
5. 園長先生 講演	2				
6. ピアノ・歌指導について	2				
7. 衣装作り・発表会、お遊戯会に向けて	4				
8. お遊戯・体操指導について	4				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は 45 分換算		年度	2026 年度
				科目コード	NJB26Y363
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ソツギョウケンキュウ 卒業研究		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	通年	必修	60	2	長谷川 智子
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	今まで学んできた保育・教育にかかわる課題の中から、自分の関心のあるものを選び、分析、考察、検討を行うとともに、その課題について、児童や保護者を援助するための技術、方法について研究を進める。				
思考力・判断力・表現力	研究テーマに基づきさまざまな視点から研究を進められるようにする。伝えたい部分の表現を自分なりに考え適切な表現ができるようにする。				
学びに向かう力	他者と協働して進めていく姿勢や、主体性を持って進めていこうとする。				
授業の概要					
今まで学んできた保育・教職にかかわる課題の中から、自分たちの興味のあることや気になることを一つ選び、様々な角度から研究して欲しい。また、物事を追及することの楽しさを知ってほしい。					
成績評価基準					
授業態度、発表の状況を総合評価し、合計 60 点以上のものに単位を与える。				発表	40%
				日常評価	60%
使用テキスト・教材					
授業内で提示					
授業内容・授業計画					
			時間数		時間数
1. 卒論とは			2		
2. 卒論基礎知識			2		
3. テーマ決め			4		
4. 課題の取り組み			48		
5. 卒研発表			4		
その他			関連科目		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y3S16
授業科目名		授業形態		学科・コース	
コドモノケンコウトアンゼン 子どもの健康と安全S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	20	1	望月 満美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	小児に起こりやすい疾病、異常、障害などについて理解を深める。				
思考力・判断力・表現力	こどもの心身の成長に合わせた健康習慣や安全ルールを理解し、主体的に健康を守る力を育てる。				
学びに向かう力	小児の生活を積極的に豊かにし、体力や情操を高め、障害を避け、疾病の予防の仕方、地域の連携のあり方について学ぶ。				
授業の概要					
こどもに起こりやすい疾病・障害等の知識を学び、理解を深められるようにする。					
成績評価基準					
授業態度等による日常評価と授業中に行う小テストの成績により決定する。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				小テスト	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
授業内で提示					
授業内容・授業計画					
1. 子どもの健康と保育の環境	時間数	2	8. 3歳未満児への対応	時間数	2
2. 個別対応と集団全体の健康及び安全管理	2		9. 個別的な配慮を要する子どもへの対応	2	
3. 衛星管理、自己防止及び安全管理、危機管理、災害への備え	2		10. 障害のある子どもへの対応	2	
4. 体調不良や傷害が発生した場合の対応	2				
5. 応急処置、救急処置及び救急蘇生法	2				
6. 感染症の集団発生の予防、感染症発生時と罹患後の対応	2				
7. 保育における保健的対応の基本的な考え方	2				
その他	関連科目				
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y3S23
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクキョウシヨクジッセンエンシュウ 保育・教職実践演習S		演習	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	20	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育者を目指す学生として、自分を見つめ直し、現在の自分自身の実態と課題を明確にする。				
思考力・判断力・表現力	こども一人ひとりの特性や状況に応じて柔軟に対応し、保育現場で直面する課題を観察し、適切な解決方法を導き出す力を身につける。				
学びに向かう力	保育現場での実践力を高め、こどもたちの成長に寄り添うために必要なスキルや知識を深め、柔軟に適応する力を身につける。				
授業の概要					
保育教諭としての実践的力量形成を目的とし、これまでの実習を振り返り保育現場で求められる課題解決力や専門的判断を演習を通して学ぶ。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
保育・教職実践演習 近畿大学九州短期大学 履修カルテ					
授業内容・授業計画					
		時間数			時間数
1. 社会性や対人能力		4			
2. こどもの理解と集団づくり		4			
3. 保育内容と援助		2			
4. 自己課題を克服する取り組み		2			
5. 自分の「強み」をいかす取り組み		2			
6. 保育課題の検討		4			
7. まとめ		2			
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。					

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y3S27
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクジッシュウイチ (シセツ) 保育実習 I (施設)S		実習		こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	後期	必修	60	2	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育士として必要な資質・能力・技術の向上を課題とし、施設をとりまく家庭と地域の生活実態に触れ、家庭福祉ニーズに対する理解力を深める。				
思考力・判断力・表現力	福祉施設の理念や目的を理解し、それに基づいた支援方法を学ぶ力。				
学びに向かう力	子育てを支援するために必要とされる能力を養う。				
授業の概要					
児童福祉施設における保育・支援の理解を目的とし、観察実習を通して、生活支援や援助のあり方を学び、専門的な実践力を育む。保育所以外の児童福祉施設にて2週間の実習を行う。					
成績評価基準					
実習態度、課題、提出物の状況を総合評価し、決定する。 ※実習不合格の場合は不可とし、再実習とする。				課題	30%
				実習評価	70%
使用テキスト・教材					
適宜					
授業内容・授業計画					
1. 児童福祉施設での実習			時間数 60		時間数
その他			関連科目		
			保育実習事前事後指導 I (施設) S		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y3S28
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクジッシュウニ 保育実習 IIS		実習		こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	60	2	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	保育士として必要な資質・能力・技術の向上を課題とし、これまで学習してきた理論を基礎として、保育現場において生きた保育技術を学ぶ。				
思考力・判断力・表現力	事前に立てた実習計画を実践し、計画通りに保育活動を行う力。				
学びに向かう力	実習の目的を認識し、実習園の指示に従いながら、目的を達成するために真剣に実習に取り組む。				
授業の概要					
保育実践の応用力向上を目的とし、責任実習を通して、こども理解と援助の深化、課題に応じた実践的な関わり方を実習体験を通して学ぶ。保育所にて2週間の実習を行い、責任実習を行う。					
成績評価基準					
実習態度、課題、提出物の状況を総合評価し、決定する。 ※実習不合格の場合は不可とし、再実習とする。				課題	30%
				実習評価	70%
使用テキスト・教材					
適宜					
授業内容・授業計画					
1. 保育園での実習			時間数 60	時間数	
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			保育実習事前事後指導 IIS		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y3S31
授業科目名		授業形態		学科・コース	
キョウイクジッシュウ 教育実習②S		実習		こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	90	3	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	専門科目で習得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら体験的に、また総合的に認識を深め、幼児教育に関わる理論と実践を統合していく。				
思考力・判断力・表現力	教育目標に基づいた教育計画や活動の目標を設定し、それを実現するための力。				
学びに向かう力	観察・参加実習を主とする実習を行い、幼児教育の理解を深める。				
授業の概要					
幼稚園教育の応用的実践力向上を目的とし、責任実習を通して、活動計画や援助を主体的に行い、専門的な指導力と実践力を学ぶ。幼稚園にて3週間の実習を行い、責任実習をする。					
成績評価基準					
実習態度、課題、提出物の状況を総合評価し、決定する。 ※実習不合格の場合は不可とし、再実習とする。				課題	30%
				日常評価	70%
使用テキスト・教材					
適宜					
授業内容・授業計画					
1. 幼稚園での実習			時間数 90	時間数	
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			教育実習事前事後指導S		

シラバス (授業概要)		時間数は45分換算		年度	2026年度
				科目コード	NJB26Y3S33
授業科目名		授業形態		学科・コース	
ホイクジッシュウジゼンジゴシドウ 保育実習事前事後指導 IIS		講義	対面	こども保育科	
履修学年	履修時期	必修・選択	時間数	単位数	担当教員
3	前期	必修	20	1	三枝 昌美
授業の目的・目標 (科目のねらい)					
知識・技能	実習の理念を理解し、保育者、社会人としての自覚を持つ。保育実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。				
思考力・判断力・表現力	保育現場での具体的な行動計画を立て、目的意識を持って実習に臨むために、実習前に自分の目標を具体的に設定し、成長に向けた明確なビジョンを持つ力。				
学びに向かう力	保育実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。				
授業の概要					
責任実習を円滑におこなうために、目的や課題が明確になるよう事前指導を行う。また、実習の計画、実践、記録、評価の方法や内容についても具体的に理解する。日頃の学習の集大成が実習である。失敗を恐れず、積極的に実習に臨めるよう授業を受け、事前準備をしっかりと行う。					
成績評価基準					
<ul style="list-style-type: none"> 授業態度等による日常評価により決定する。 授業中に提示した課題を作成・提出・評価を受けること。 ※遅刻・欠席があった場合は不可とし、次年度再受講とする。				課題	50%
				日常評価	50%
使用テキスト・教材					
『新訂 幼稚園・保育所・児童福祉施設等 実習ガイド』 同文書院 他					
授業内容・授業計画					
			時間数		
1. 観察実習の振り返り 実習課題の確認			4		
2. 責任実習とは			4		
3. 責任実習主活動について			4		
4. 実習日誌・部分実習案の書き方 (振り返り)			4		
5. 保育実習に向けての準備			4		
その他			関連科目		
※実務経験のある教員が担当する科目である。			保育実習 IIS		